

□議員名：吉永美子

1 環境問題について

論点	3月議会で環境展を水道展と一緒に開催してはどうかと提案し、6月に初の共同開催がされたが、その総括と今後の予定を聞く。
回答	今年度は農林水産課の森林保全の啓発展示も加わり、水道展との合同開催による相乗効果もあって、2日間で約1700人の方に来場いただき、常に来場者が途絶えない状況で、非常に盛会な催し物となった。今年度の盛況ぶりも考慮し、さらに内容を充実させて、来年度以降も水道展との合同開催を進めていきたい。

論点	先月成立した、まだ食べられるのに捨ててしまう「食品ロス」の削減を目指す食品ロス削減推進法には、自治体の努力義務が明記されているが、本市の取り組みについて考えを聞く。
回答	食品の生産、製造・加工、販売等のそれぞれ各段階、各分野における食品ロスの削減に関する啓発、その取り組みに対する支援など、必要な施策を講じることになると考えているので、環境部門に限らず、食品の生産から商品に至る一連の過程に関係する全ての部門・部署が一丸となって取り組まなければならないものと考えている。

論点	10月のオレンジ月間と同月の食品ロス削減月間には、フードドライブを含めて取り組みを進めてほしいと思うが、本市の考えを聞く。
回答	これまでの「やまぐち食べきっちよる運動」や「3010運動」に加えて、さらに啓発活動を行わなければいけないと考えているが、法律が成立したばかりで具体的なものは持っていない。ただ「オレンジ月間」には、さまざまなイベント等が連携して行われるようになっているので、これからしっかりと検討していきたい。

2 子どもの安全対策

論点	滋賀県大津市で発生した保育園児らを巻き込む交通死傷事故を受け、保育所の通園や園外の活動ルートของ 安全確保について取り組み状況を聞く。
----	--

回答	公立保育所においては、施設の周辺の交通危険箇所のチェックや散歩ルートの特検、引率体制等の再確認を行い、各職員が共通認識を持って保育に当たれるよう、職員間での情報共有を行った。また、毎月、園で実施している交通安全指導の日などに園児と一緒に散歩ルートを歩き、道路の正しい歩き方や車の危険性について指導するとともに、職員の立ち位置等についての再確認を行っている。
----	--

論点	幼稚園の通園や園外の活動ルートの安全確保について、取り組み状況を聞く。
回答	交通量の多い国道沿いの歩道はなるべく通らず、住宅地など交通量の少ない道に迂回したり、引率者の配置を工夫し、列の前方・中盤・後方を歩き、全体の安全確認をしている。また、引率者が車道側を歩き、園児をできるだけ車道から離すようにも配慮している。横断歩道を渡る際は、安全旗を使用し、安全確保に努めるとともに、赤信号で待つ場合は、ガードレールのある場所で待機をさせている。

論点	通学路や校外の活動ルートの安全確保について、取り組み状況を聞く。
回答	通学路の危険改善箇所の抽出を保護者・地域・学校が行い、7月に第1回の通学路安全推進会議を開催している。危険改善箇所の確認、合同点検の計画を立て、その後、合同点検を中学校区ごとに実施し、ハード・ソフト面の具体的対策の検討や対策一覧の作成を行い、対策の実施を行う。2月に第2回通学路安全推進会議を開催し、対策の進捗状況の確認等行うPDCAサイクルを回している。

論点	各小中学校において保健安全計画を策定されていると思うが、計画の見直しをどのように行っているのか。
回答	計画の見直しについては、施設の防災対策や危機管理マニュアルの整備、通学中の交通事故や防犯防止のための安全点検、見守り活動等、児童・生徒を取り巻くさまざまな観点から、危険を的確に捉え、常にその改善に努めている。

3 投票率向上の取り組みについて

論点	将来、有権者となる子どもたちを含めた有権者教育の現状と今後の予定を聞く。
回答	小学校では出前講座の開催、中学校や高校では生徒会の役員選挙など投票箱や投票用紙記載台等の選挙備品の貸出を行って、生徒に選挙の方法に親しんでもらっている。今年は新たに、当日投票所の事務従事者として山口東京理科大学の学生を募集している。

論点	自治体クラウドの加入により投票所入場券が変更となるが、投票をより促す取り組みとなるための工夫はあるか。
回答	大きな変更なので、広報やホームページ等で周知を事前に図っていきたいと思うが、具体的な時期、内容についてはまだ詰めていないので、議員の指摘のように、入場券が一人一人に届くというところをアピールする広報を事前に早目にしていければと考えている。

4 定住促進について

論点	定住ガイドブックなど、定住を呼びかけるためのグッズ作成の予定を聞く。
回答	移住フェア等に参加し他市の配布物を見ると、冊子の厚さ、内容の範囲はさまざまではあるが、工夫を凝らした移住定住のPRのための冊子をつくっている。本市としても、その必要性は十分認識しているので、来年度作成に向けて検討を進めていきたい。

論点	市独自で行ってきた婚活支援事業を昨年度でやめてしまっている。その理由も含めて、婚活支援の現状と今後の予定を聞く。
回答	やめた理由としては、市内在住の参加者が少なかったことが大きな原因である。婚活事業については、定住促進を進めるという観点から広域のほうが有効ではないかと思っているので、県が実施のやまぐち結婚応援センターの活動や他市の情報をホームページ等でリンクすることによってPRするとともに、県央連携都市圏域の中で実施することができないか働きかけをしていきたい。